

自然休養林情報

自然休養林とは?

昭和40年代に入り、国民生活水準の向上や余暇の増大、都市化が進展し、緑豊かな森林にレクリエーションの場を求める傾向が強くなったことから、林野庁では、国有林の中でも特に風景等の優れた所を選んで、「自然休養林」として国民に開放することにしました。

自然休養林は現在、全国に91箇所あり、森林景観の保護と秩序ある利用を図るため、森林の整備や休憩所、駐車場等を整備しており、キャンプ場やスキー場も含まれます。

屋久島では、昭和46年6月に荒川屋久杉観賞林及び白谷雲水峽自然観賞林として一般に開放された後、昭和49年3月に屋久島自然休養林荒川地区(ヤクスギランド)及び白谷地区(白谷雲水峽)として指定され、現在に至っています。

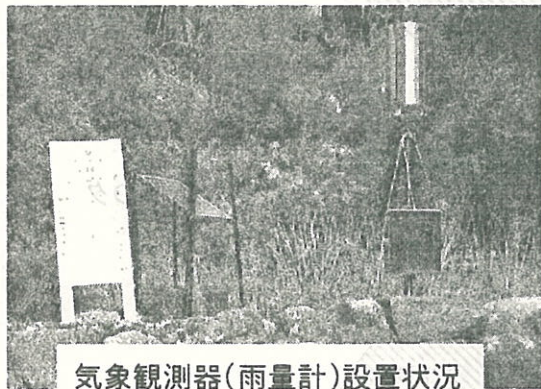
- 全地点(四箇所)平均は四・八と全国平均に等しい
- 一、二、三月に低い↓大陸からの季節風の影響?

- 高層湿原の pH は他より低く花之江河は五・四
- 半山(西部林道)は海塩の影響が大きい



アンケート結果を参考に、さらに中味の濃い紙

面作りに心掛け、情報発信の場として有効に活用していきたいと思えます。



気象観測器(雨量計)設置状況

雨量観測データに高い関心

洋上アルプスアンケート結果

先月、本紙洋上アルプスのアンケートを皆さんのお願いし、データの公表や業務の紹介などに對して、高い評価をいただきました。

アンケートは、洋上アルプスに対する意見や要望をうかがい、本紙の現状と今後の改良点を把握するためにいたしました。読者の皆さんからは、若干の注文があったものの、かなりの評価を得ていることがわかりました。

特に、雨量観測データ等の保全センター所有データの紹介や分析、世界遺産登録後の屋久島の動き等について高い関心が寄せられているようです。

主なアンケート結果と分析は、裏面に掲載しています。

一日平均 二三四人の入山者

登山者の秋期入り込み実態調査速報

昨年から行っている入り込み調査を、今年は一、二、三日から五日までの連休を含む五日間、淀川、荒川及び楠川の三つの登山口で、鹿児島大学森林政策学研究室に委託して実施しました。

入り込みの最も多かった荒川口では、一、二日の入山者が二三四人、平均入山者が一、二、四人でした。これは、この夏の屋久島山岳部利用対策協議会の調査による最大二二七人、平均九六人を上回るものです。

また、三つの登山口の日平均入山者合計も二二四人に

やっぱり全国並の酸性雨が全島に



水質調査中間報告 第二弾

屋久島の水を毎月採取して一年、以下は森林総合研究所九州支所によるこれまでの分析です。来春には詳しい報告書を作成します。

【林外雨(降雨)の pH】

○ 宮之浦及び県道白谷線沿いで低い傾向↓汚染源は?

○ pH の全平均(六箇所)は五・九と林外雨より高い↓土壌緩衝能

○ 高層湿原の pH は他より低く花之江河は五・四

○ 半山(西部林道)は海塩の影響が大きい

屋久島の植物



ヒロハノミズバイ (はいのき科)

オニクロキとも言い、四国・九州の一部と種子・屋久以南に分布する常緑小高木。大川の滝などの海岸近くから標高千二百mまで分布する。葉は濃緑色で厚い革質、光沢がある。一、二、三月頃、白花を葉の付け根に集まって咲かせる。今年には愛子岳で一月中旬に開花。果実は二cm 余りと大きく、黒く熟す。

上り、秋期の登山者も大変多いことがわかりました。(数値は、今後の精査により変動の可能性あり。)

蛇之口滝まで



通行可能

先月二五日、尾之間歩道の森林パトロールを行いました。尾之間温泉前の登山道入口から約四〇分登ると、台風一

九号で歩道が決壊している所があります。崩壊地を横切って歩道の修復は難しいのでその上に迂回路を作りました。歩道沿いには、ツワブキやカンツワブキの花々、ルリミノキの美しい実などの彩りが、疲れをいやしてくれます。尾之間歩道と蛇之口滝への分岐点には東屋があり、ベンチも所々に設けてあります。

お知今世

巨木を語るう舎

第十回巨木を語るう舎

国フォーラムが一月二一・二二日の二日間、屋久島で開催されました。保全センターでは、屋久島環境文化村センターがフォーラム関連事業として一月末日まで開催した「屋久島の植物展」に植物写真部門の大型パネル二八枚を提供し、フォーラムの盛り上げに協力しました。

洋上アルプスのアンケート結果

(アンケート136部を依頼し、79部を回収(回収率58%))

1 紙面への関心はますます

洋上アルプスをどれくらい読んでいるかについての回答は、じっくりと読む・目を通す程度読むという回答が95.9%を占めており、紙面への関心の高さがうかがわれます。

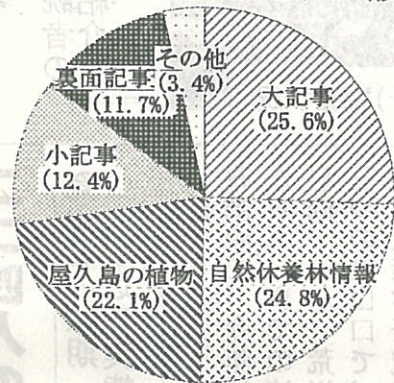
図-1 どれくらい読んでいるか



2 記事にかたよりがなく均等に興味あり

紙面の中で、興味のあるものについて聞いたところ、記事のタイプに関係なく、だいたい均等に関心をもたれていました。

図-2 興味のあるものはどれか(複数回答)



3 データ情報やその分析に高い関心

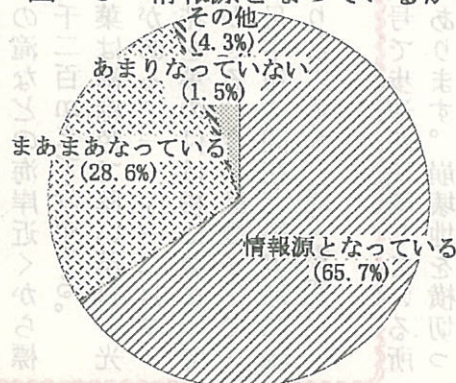
最近数号の記事の中で、良かったもの又は記憶に残っているものについて聞いていますが、回答が多かったものは、順に以下のとおりです。(複数回答)

- (1) 熊本営林局からの縄文スギの新登山ルート開設を要請 屋久島山岳部利用対策協議会開催 (31票)
- (2) 屋久島の酸性雨全国並に? (27票)
- (2) 雨量計観測データ一覧表 (27票)
- (4) 黒味岳年間雨量5645mm (26票)
- (5) 入島観光客数は昨年を超えるか (23票)
- (6) 新高塚小屋で登山者行方不明 (20票)

4 洋上アルプスは情報源

洋上アルプスは情報源となっているかについては、情報源となっている、まあまあなっているとの回答が94.3%と、洋上アルプスが有効に活用されていることがわかります。

図-3 情報源となっているか



5 文字の大きさ、色使い等はそのまま

文字、色使い等については、「A4が整理しやすい」、「記事の間隔が窮屈な感じがする」等の意見がありましたが見やすい、適当という回答がほとんどでした。

今後は、紙面の大きさ、文字の大きさ、色使いについては当面現状を維持し、記事の間隔については空白部を多く設けて読みやすい紙面となるよう気をつけていきたいと思ひます。

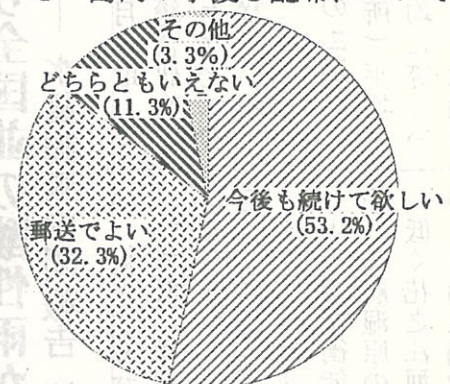
(%)

紙面(B4版)の大きさ			
1.大きい(9.6)	2.適当(83.6)	3.小さい(2.7)	4.その他(4.1)
(意見等)・A4が整理しやすい ・Bを中折にしてB5仕上げでは			
文字の大きさ			
1.大きい(6.8)	2.適当(91.8)	3.小さい(1.4)	4.その他(0)
(意見等)・10ポイント程度で十分			
文字の量(ボリューム)			
1.多い(0)	2.適当(91.9)	3.少ない(5.4)	4.その他(2.7)
(意見等)・記事の各々(間隔)が窮屈な感じがする ・もっと白地があっても良い			
色使い			
1.見やすい(54.8)	2.適当(42.5)	3.見にくい(0)	4.その他(2.7)
(意見等)・全体のバランスを考えて ・写真はカラーで			

6 今後も手渡して

島内の手渡し配布について聞いていますが、今後も続けてほしいという回答が53.2%あった反面、郵送で良いとの回答が32.3%ありました。検討の余地が有ると思ひますが、保全センター業務に対しての生の意見を聞くためにも、今後も極力手渡して配布していく考えです。

図-4 島内の手渡し配布について



7 特に載せて欲しいと思っている記事(主な意見を掲載)

- ・登山コース等の見所、途中の草木の観察ポイント場所など
- ・登山者実態の統計(コース、日程など)
- ・山岳・森林についてのデータならなんでも
- ・環境測定データとその解析
- ・専門用語の解説(自然休養林とか)

8 その他の意見等(主な意見を掲載)

- ・公表できる情報はどんどん公表して欲しい
- ・新しいシリーズやコーナーを設けてはどうでしょうか
- ・インターネットでの提供を検討願いたい
- ・世界的レベルでの情報を楽しみにしています
- ・地元の人々が関心を持つように書いてもらいたい
- ・全島民へ配布して下さい
- ・これだけの情報を提供してくれてありがたい
- ・毎月の発行本当に大変だと思ひます、今後とも頑張ってください